

平成31年5月17日

理事会資料

平成30年度事業報告

平成30年度は、専門における学生募集が不調だったこと、鍼灸学科を閉じたこと、高校は生徒を確保できたこと、第一校舎を解体し跡地の一部で収益事業を開始したこと等、変化の大きな年度であった。

平成31年度は介護福祉学科に留学生を迎えることになったように、環境の変化に対応して我々自身がさらに変わっていかねばならない状況にある。

事業報告の詳細については、下記の通りとなる。

1. 法人本部

事業計画における目標として「学生、生徒・保護者を満足させるサービス提供」を掲げたが、専門学校においては合格率が向上しており、高校においては「学び直し」を掲げて生徒のレベルに応じた教育を実践してきた。

平成30年度事業報告として

- ① 本部、専門、高校の3つの組織間の意思疎通をスムーズにするためのITツール活用だけでなく、人事異動も行い組織を変えた。
- ② 全教職員の研修として、「中学生・高校生はどんな学校を選ぶのか？」をテーマに、岩佐教育研究所 岩佐圭一先生による講演を行った。
- ③ IT教育の活用として、専門および高校における電子黒板の活用の活発化、タブレットの活用、無線LAN環境の整備を行った。
- ④ ボランティア部の積極的な活動、飯能新緑ツーデーマーチへの参加協力等、本校の地域に根ざした活動を引き続き積極的に行い、生徒・学生の精神的な成長も得ながら地域への貢献に尽力した。
- ⑤ 広報室を法人本部直轄とし、広報活動全体を見直して広報活動を行った。

2. 大川学園高等学校・大川学園高等専修学校

重点目標「保護者の期待に応える学校づくり、生徒の「伸びしろ」が大きい学校づくり」を実現するため、以下のように事業（新規◎継続○）を実施した。

- ① どの生徒にも学ぶ喜びを実感させ、学力を着実につける。
 - ◎月曜日を「学び直しの日」として「ステップアップ講座」の開設
 - ◎学習支援へのタブレットの活用とその効果の研究
 - SDM（システムデザインマネジメント）授業の継続・充実
 - ◎普通科選択授業（フィットネス）にミュージカル教育の導入（ソニーミュージックとの連携）
 - 福祉科現場実習の実施方法の改善

- ◎大川学園医療福祉専門学校との合同授業の実施（福祉科）
 - 各種検定合格者増加に向けた指導方法の工夫
- ② 深い生徒理解に基づく生徒指導を徹底し、進路実現を図るとともに人格の完成を目指す。
 - ◎学年主任会の新設
 - ◎生徒指導部に教育支援プログラム担当の新設
 - ◎LHR（ロングホームルーム）の時間で道徳授業実施
 - ◎「道徳教育元年」記念イベント開催
 - 登下校指導、服装・頭髪指導、遅刻指導の毎日実施
 - きめこまかな生徒指導
 - 計画的な進路指導
- ③ 地域と連携し、開かれた学校づくりを進めるとともに安定した生徒募集を実現する。
 - ボランティア活動
 - ◎部活動における外部コーチの導入、全国定通大会日本一(埼玉県チームの一員として女子ソフトテニス、女子剣道)
 - ◎学校説明会の工夫
 - ◎駿河台大学との連携機会の増加

3. 大川学園医療福祉専門学校

平成30年度は「地域における医療・介護に携わる一員として活躍できる人材育成」を理念に掲げ、学生指導、学生募集活動、附帯教育活動等に取り組んだ。

学生指導等の報告は以下の通りである。

① 学生指導

国家試験合格率100%を目指し、各学科とも国家試験対策として講座や補講を行った結果、一定の成果を得ることができた。就職指導においては、施設や企業の担当者を招き job カフェ、就職ガイダンスを開催しほぼ全員が就職した。

② 運営管理

運営委員会、職員会議、自己評価委員会、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会の開催、交通安全教室、避難訓練、校内研修会の実施、また年間通じ教職員及び学生へ健康面、安全面等の注意喚起を促した。また、介護福祉学科職業実践専門課程の申請を行い認可された。

③ 地域貢献

芳愛接骨院・芳愛鍼灸治療センターの運営、学校施設（グラウンド・テニスコート・柔道場・教室等）の開放、飯能新緑ツーデーマーチ・高体連柔道大会・新極真空手道大会救護活動・市民健康祭り等への参加、飯能市・飯能警察署・飯能消防署との連携協力を行った。

④ 附帯教育活動

介護福祉士実習指導者講習会を開講した。

以上